



市民活動の新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地ですそ野を広げている。ファイザー製薬ではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれずに、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2001年度の助成対象となった各プロジェクト(左頁参照)を中心に、9回連続(今回は7回目)でレポートする。



「まさか福祉の仕事をするとは思っていませんでした」と、あさひ館で寝たきりの人の介護をする管さん。今や「建設業の街」から「福祉の街」になりつつある山谷地域には、管さんのような介護ヘルパーが重要な役割を担うようになる



山谷に住む人の中からヘルパーを養成し、山谷に住む仲間を介護する

特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会

山山介護支援事業(東京都)

「やればできるんだなということがわかりました。今はとても楽しいです。仕事があるから」

病気やケガなどで仕事ができず生活保護を受けている人、身寄りがいないためどこかの施設や病院にいる人、路上で生活している人など約1万2〜3千人がいるという。

日本の三大ドヤ簡易宿泊所街の一つ、東京・山谷地区でホームヘルパーとして働いている管鏡男さん(54)だ。約20年間、宿泊所生活をしながら日雇いの労働者として建設業の仕事をしてきたが、バブル崩壊による不況の波を受けて野宿生活者に、路上で暮らすうちに「ふるさとの会」の存在を知る。

「今、約5千人の人が簡易宿泊所暮らしをしています。平均年齢は56〜57歳。10年経てばほとんどの人が65歳以上になる。この地域にも福祉的なニーズと要介護保険の対象者がどつと増えるわけです。偏見などがあつて介護事業者の進出もほとんどありません。本来なら在宅介護が望ましいのに家族がいらないために入院せざるを得ない寝たきりの人たちに安心を保証し、元ホームレスのヘルパーが応援する。この地域の人たちの健康を考えるとき、メンタルの面からも就労することは、たいへん重要です。働かないと、社会からも遮断され、健康からも遠ざかってし

ふるさとの会は、山谷に住む人の中からヘルパーを養成し、仲間である山谷の人を介護する「山山介護支援事業」というプロジェクトを立ち上げていた。メンバーからヘルパーに勧められて、管さんは2年前に2級ヘルパーの資格を取得。ふるさとの会の職員として訪問介護に飛び回っている。

「僕らは、ホームレス問題の解決を地域再生と街づくりに結びつけていこうと考えています。この事業はその一環なんです」と、水田さんは強調する。



「路上生活を脱却できる道を見つかる場所になるようにしたい」と、山山介護支援事業について語る水田さん

まう。仕事ができない方にとつても、仲間が介護してくれるのは、気持ちよく伝わるので、安心できるようです」と、この試みについて語る。

現在、会が運営する「ふるさとあさひ館」(台東区千束)1階には介護保険認定を受けた一人暮らしの高齢者が10人、2階にはヘルパー2級取得・就労自立などをめざす元野宿生活者が管さんらと入居している。これまで9人がヘルパー2級の資格を取得し、併設の訪問ヘルパーステーションを通じてあさひ館の利用者と地域の人たちの介護を行っている。

山谷地区には、現在、日雇いの労働者

も遮断され、健康からも遠ざかってし

と、水田さんは強調する。

子供たちがのびやかに共同生活体験合宿。しなやかな心と自立の精神を育む

特定非営利活動法人コロンブスアカデミー

不登校の子ども達のための六浦共同生活舎生活体験合宿(神奈川県)

**2001年度
助成対象プロジェクトの
団体名・活動内容・
主な活動地域**

新規助成

1	札幌市ホームレス者の健康支援と実態調査 北海道のホームレス者の健康支援を行う医師・医学生会の会(札幌市)
2	障害児・者とその家族のための生活支援サービス促進事業 サポート・ハウスばお(埼玉県蓮田市)
3	暴力被害女性支援“自然派レストラン・喫茶Saya-Saya”事業 地域生活支援ネットワーク女性ネットSaya-Saya(東京都荒川区)
4	薬物依存症の青少年のためのデイケア事業 特定非営利活動法人セルフ・サポート研究所(東京都江東区)
5	障害児・者に対するダンスワークショップ 特定非営利活動法人ポーロニア協会(東京都江東区)
6	DV被害女性及び同伴者の緊急一時保護事業 FTCシェルター(東京都)
7	ひきこもりサポートプロジェクト 日本アットトルドレン協会(JACA)(東京都世田谷区)
8	山山介護支援事業 特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会(東京都台東区)
9	思春期の自立と精神保健を育むピアサポート事業 ティーンズポスト(東京都町田市)
10	不登校の子ども達のための六浦共同生活舎生活体験合宿 特定非営利活動法人コンパスアカデミー(神奈川県横浜府)
11	横浜寿町「さなぎの家」 なんでもSOS班 特定非営利活動法人さなぎ達(神奈川県横浜府)
12	障害者の地域生活を支える民間レスパイト事業 コピニの会(愛知県名古屋府)
13	釜ヶ崎地域における「終わりなき」生活支援事業 木曜夜まわりの会(大阪府大阪府)
14	拘置所に収監中の薬物依存者へのインタビュー・プログラム フリーダム(大阪府大阪府)
15	日本在住外国人のための医療支援事業 社団法人まづくり国際交流センター(奈良県橿原府)
16	不登校の子どもたちの健康と体力づくりを考える 神戸フリースクール(兵庫県神戸府)
17	高機能広汎性発達障害の子ども達のサポート事業 岡山県高機能広汎性発達障害児者の親の会(岡山県岡山市)
18	10代の生と性を考える ドラマスクールin三原 みはらおやこ劇場(広島県三原府)

継続助成

19	ショッピングセンターの機能を生かした福祉サービス 特定非営利活動法人自立支援センターフィティ(青森県上北郡下田町)
20	チャイルドライン千葉「子ども電話」 特定非営利活動法人子ども劇場千葉センター(千葉県千葉府)
21	川崎ホームレス保健プロジェクト「冬を生きぬき、春を呼びこめ」 川崎水曜/土曜の会(神奈川県川崎市)
22	中等教育を補う「コミュニティ・スクール」の実現をめざして 特定非営利活動法人イベラビューマンサポート(静岡県三島府)
23	不登校児童・生徒の支援に係わるセミナー開催事業 特定非営利活動法人ブレンニューマニヤ(兵庫県西宮府)
24	精神障害者のための「つどい」事業の普及充実活動 障害者を持ちながら自立と納得いく社会参加を目指すふれあいセンター(沖縄県那覇府)



葉山の長者ヶ崎海岸で釣りを楽しむ生活舎の子供たち。(写真上)。生活舎の子供たちの部屋。男女別に2~3人で共同生活(写真左上)。子供たちにお兄さんのように慕われているスタッフの尾根山さん(左)

「ここに来る子供たちはコミュニケーションが苦手で、何か攻撃を受けたときに跳ね返す力が育ってない。長年の不登校から、家族に対する不信感が募って家庭内暴力にまでいく子もいる。」

「長い不登校生活で考える時間は十分にあつたんです。今は、考えるのでは

今この生活舎では、数人の中学生から20代の若者までが共同合宿している。いすれも不登校やひきこもり、家庭内暴力などに問題を抱えた若者たちである。ここでの生活は、問題の状態や段階に応じて短期と長期のプログラムを設定。2週間の短期合宿では子供たちが安心して過ごせる一時避難的な居場所として、1か月の長期合宿では心

合宿生活は朝7時起床で食事の支度部屋の掃除などは全部自分たちでやる。学校に行かない子は自由に過ごしてもいいし、料理・絵画・音楽など好きなプログラムを選んで勉強できる。学業については教員資格を持ったスタッフが指導もする。

横浜コンロンス六浦共同生活舎、通称「ムツコロ」は京浜急行逗子線の六浦駅から徒歩約10分の急な坂道を登りきった小高い山の上にある。もともとムツコロの主任スタッフである尾根山智彦さんが生まれ育った家で、木造二階建ての古い建物だが部屋数は7室ある。見晴らしがよく、近くには乗馬場などがあり、葉山や逗子の海岸まで車なら20~30分の距離だ。

共同生活の成果は、グループのインターナショナルコンロンスアカデミーが学校生活や家庭・地域生活になじめない子供たちに自立の心を育むために行った小型ヨットによる長期外洋航海やキャンプ、勉強会などで明らかになっている。ムツコロはその一つのフリースクールで2000年3月に開所した。現在は7名の常勤職員とボランティアスタッフの協力で運営されている。



「ここでの共同生活合宿によって、たくましく社会に出ていくための問題解決のきっかけになればいい」と語る金森さん

**【ファイザープログラム】
心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援
2002年度 募集要項**

1. 募集期間: 2002年7月1日~8月13日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2003年1月1日~12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
→ おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身のケアを支援する活動
→ 外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人たちを対象とするもの
 - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
→ 身体障害、知的障害、精神障害などの人たち、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先: ファイザー・製薬株式会社 企業文化部 03-3344-7524
応募要項はホームページからダウンロードできます <http://www.pfizer.co.jp>

なく、働きたい、学校に行きたいといった生活の主体となるものを自分で見つけることが大事なんです。それと同時にムツコロで、他人と同じ釜の飯を食うことで、くすれている生活リズムを規則正しい共同生活で取り戻す。そして、自分と同じ状況にある仲間への思いやりの精神を培うことにもなる。ムツコロはあくまでも社会へ出ていくための一つのきっかけになればいい」と金森さんはいつが、子供たちにとっ